

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600043		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム 和夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町佐賀3179-7		
自己評価作成日	令和元年9月26日	評価結果 市町村受理日	令和元年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を180度の大パノラマで望める高台に位置し、自然豊かな環境の中で、365日四季の景観を満喫して穏やかに過ごせる事業所である。同一敷地内に母体法人の特別養護老人ホームや、デイサービスセンターがあり、合同で行なう行事に利用者も参加し、幅広く地域との交流ができています。緊急時等における事業所間の連携、協力体制も整っており、利用者の安全と豊かな暮らしを支援している。

家族生活の維持を考えた取り組みとして、家族の宿泊もできるようになっている。理念に「今日の笑顔、より明日の笑顔を求めて」を掲げ、利用者の尊厳を重視しながら、プライバシー保護に関する職員教育に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoNoCd=3992600043-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoNoCd=3992600043-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年10月31日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町の中心部から少し離れた国道沿いの高台にあり、太平洋が一望できる自然豊かな環境にある。敷地内に母体法人の運営する特別養護老人ホームやデイサービス事業所が併設されており、相互に活発な交流が行われ、災害訓練や研修等での協力体制が整備されている。津波や水害のリスクは低いとされ、地域の避難所にも指定されている。

地理的に地域住民と離れており、直接の交流は少ないものの、デイサービス事業所等の併設施設を利用する利用者の知人、友人が多く、日常的に顔を合わせている。協力医との連携もスムーズに行なわれ、利用者の健康管理が行き届いている。

職員は、理念に基づき個人の尊厳、「より笑顔に」を意識したケアを心がけ、事業所からは明るい雰囲気を感じられる。また、職員は研修にも積極的に参加して、ケアの質の向上に努めている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から地域密着型事業所としての理念を掲げ、日頃から職員会等を通じて職員全員が共有し、実践に向けて取り組んでいる。	「今日の笑顔、より明日の笑顔を求めて」という理念を玄関や事務所に掲示して、職員の意識を高めている。職員は笑顔に努め、個人の尊厳確保には特に配慮している。職員会で振り返りを行い、日頃の言葉使いを注意し合ったり、管理者からも指導している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れているため近隣住民との交流はないが、隣接の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターの利用者との交流や、町内の運動会や祭り、イベント見学に出かけて、交流のきっかけづくりに努めている。	近隣住宅と離れた立地条件にあり、直接の行き来はないが、自治会には加入し、利用者は町の老人体育大会や文化展等多くの行事に積極的に参加して、知人、友人との交流の場になっている。併設施設の利用者に友人、知人が多く、日常的に交流がある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携して、家族や地域の相談窓口となっている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーである行政や家族、地域の代表から意見や要望が出され、双方向に意見を交わし、意見交換の記録も取っている。外部評価結果と、その後の取り組みについても報告している。事業所の理解促進につながっている。	運営推進会議では、利用者の状況や外部評価結果等を報告、検討している。民生委員からの提案で、事業所共用空間の飾りつけが充実し、町文化展への利用者の作品出展が実現できた。区長や民生委員が欠席の日には、地域住民なしでの会議となっていた。	地域住民代表の参加は、地域との密着が重視される事業所にとって重要であり、地区長や民生委員が出席できない場合には、代理の出席者を出してもらう等、地域住民代表の出席を欠かさないようにすることを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町行政とは、地域包括支援センター、住民課、介護課等と意見交換をし、事業所の情報を報告するほか、地域からの情報も得ている。	町とは日頃から連携ができており、週1回は支所に出向き、相互の情報交換を行っている。分からないことは迅速に問い合わせ、記録するようにしている。町主催の「くろしお学校」があり、研修会に参加している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの研修には積極的に参加しており、業務の中でも、日常的に管理者が職員に周知している。玄関の施錠は、夜間20時以降としている。	職員は町の研修会に参加するとともに、職員会でも話し合っており、身体拘束をしないケアへの理解を深めている。施錠等の拘束にあたる行為は禁止しているが、利用者がガラスを割る事故があり、安全対策のため、家族の同意を得て、室内の窓際に拘束とならない程度の柵を設置した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には積極的に参加し、職員会で参加できなかった職員向けの勉強会を行なっている。日頃から利用者の尊厳について考え、正しい行動のもとに支援にあたっている。虐待を見過ごすことがないように、職員が互いに注意し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会で成年後見制度について説明するなど、権利擁護の理解や、尊厳の確保も含めて、職員に周知徹底することに努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分な説明をして、納得してもらえよう取り組んでいる。家族が県外の場合には、その後も連絡を取り合うなど、理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は受け入れる姿勢で、運営に活かすように心がけている。家族来訪時には意見を聞き、県外の家族には定期的に電話で報告する際に意見を聞く機会を持っている。利用者からは、コーヒータムの折に意見を聞いている。	日頃から利用者や家族の意見を聞くよう心がけているが、参加者が少なく家族会開催には至っていない。利用者の作品を事業所内に展示したところ、事業所内に掲示された自分の作品を家族に見に来てほしいとの利用者の思いが聞かれ、職員は家族に連絡して、見に来てもらった事例がある。	事業所行事への家族参加を呼びかけ、小人数でも家族が集い、話し合えるような場の設定を期待する。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会には代表としてえ施設長も出席し、連絡事項などを説明している。職員は日頃の業務に関する意見を出すなど、共通認識ができています。	職員会やカンファレンス等で、職員からよく意見が出されている。多忙な中での職員協力体制、業務分担の見直しや、利用者の健康維持のための活動、作業内容を検討する等、職員の意見、話し合いにより改善された事例は多い。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を通じて、代表者は職員の勤務状況を把握し、職員も働きやすい職場環境や、人間関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への積極的参加を心がけている。職員からの参加希望は取り入れられ、各自が自己研鑽に努めている。代表者は、職員一人ひとりの資質向上に協力する姿勢を持っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会に参加し、他の事業所との意見交流や、情報を聞くことで反省や参考に取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族訪問時に、本人、家族を交えて不安や問題点を聞き、解決方法を提案するなど、信頼関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接時に情報収集を行い、家族の不安や要望を十分に聞きながら、生活支援の説明を行なって、信頼関係を築くよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスや支援について、早期に希望に沿った内容になるように計画している。入所時には、特に家庭生活に近づけた希望や、事業所ではどのような希望があるか、初期のサービスのプランに取り入れている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の基本として、職員、利用者が共存して、個々の日々の暮らしに付き添うことを心がけている。利用者にもできることは手伝ってもらい、共通の話題から親しい関係づくりを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を取り、協力体制を持ちながら、家族の立場も考え、また、本人の気持ちを見守りながら、利用者を支えている。職員との関係づくりもできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人の面会や電話がある。外部からの面会にはゆっくり談笑できるよう心配りすることで、馴染みの人との関係継続に努めている。隣接の特別養護老人ホームやデイサービスセンターに日ごろから出入りすることで、利用者は馴染みの友人との交流を続けている。	友人、知人の面会、電話がよくある。地域のスーパーへの買い物やイベント参加時には、顔見知りの人たちから声をかけてもらうことが多い。併設のデイサービスセンター等には日常的に行き、馴染みの友人、知人との継続した関係を保っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごすことが多く、利用者同士の会話からも一つの家族としての関係が築かれていることが分かる。孤立する利用者は全く見られず、職員も側面的に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、地域で家族と再開した際に近況を話し合ったり、思い出話をしたりしている。必要に応じて相談を受け、支援もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの暮らし方の希望や、意向に沿えるように努めている。把握が困難なときは家族から情報を得ている。職員は日頃から関わりの中で意向や希望を聞き、ケアプランに反映している。新規入所の利用者からも、希望を聞き取っている。	職員は、日頃から利用者一人ひとりの希望や、意見を聞くよう心がけている。家に帰りたいという利用者が多く、家族に伝えて一緒に外出してくれたこともある。思いや意向について記録はしているが、時系列的に記録、共有できるものとはなっておらず、いまの思いや意向が分かりにくい。	現在作成しているモニタリングファイルを活用して、思いや意向の変化の記録を加えることで、利用者の思いや意向の変化が容易に把握でき、職員間での共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階において、家族やケアマネージャー等の関係者からの情報収集を行うとともに、入所後も聞き取り等を通じて把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の流れや心身の状況、残存能力を把握し、常に気配りをしている。就寝、起床時間も利用者一人ひとりの主体性に任せ、寄り添った支援を行っている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎の評価を行い、担当職員の意見、家族の要望も踏まえ、職員会で検討して、本人の状況に合った介護計画を作成している。	職員全員参加のもと、6ヶ月毎に介護計画を見直している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、見直し時の評価につなげている。また、利用者の変化に応じて随時見直しを行っている。家族には、あらかじめ意見を聞き、介護計画案を送って確認してもらっている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子を客観的に把握しつつ、会話の内容なども個別に記入している。その記録や情報をもとに職員間で現状を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一的なケアと、日々の解決が求められるケアには柔軟に対応することを常に念頭に置き、職員は日々の業務に取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握したうえで、利用者がその都度参加できる体制づくりを配慮し、何よりも安全な生活を保障した支援を心がけている。地域の婦人部の踊りや生バンドの演奏などの訪問を受ける等、豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し、協力医への変更は強制していない。定期的な通院は管理者が同行し、受診結果は家族に連絡している。職員は受診記録、引継ぎ帳で情報共有している。	入所時にかかりつけ医を聞き、希望に応じて受診支援を行っている。専門医も含め、6～7ヶ所の医療機関に管理者が付き添っている。遠方は、家族が同伴している。受診時は、医療機関、事業所相互で情報共有を行い、家族にも伝えて、職員間でも共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや体調の変化は管理者に報告し、週1回の訪問看護の際に相談している。職員は常に気を配って報告を行い、早期に対応できるよう取り組んでいる。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、家族、病院関係者との情報交換や現状に向けての調整などに努めている。また、退院に向けての調整など、病院ソーシャルワーカーとも連絡を取りながら、関係づくりに努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末期の際の家族の希望の聞き取り、本人の重度化時には早い段階から話し合いを行うことを申し合わせている。主治医、家族との連携を取り、看取りの実績もある。家族が希望し、主治医の協力が得られる場合には、今後も看取りの体制を整えていくこととしている。	協力医の体制が変わり、往診がなくなったことから、事業所での看取りは現在行っていない。家族には入所時に説明し、同意を得ている。本人が重度化した場合には、主治医、家族と連絡をとり、迅速に対応することとしている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急性が高いと判断した場合や、事前に予測を立てることなど、その時々での対処方法を日々の業務の中での話し合い、職員会を通じて職員に周知している。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年次計画を作り、併設施設と協力体制を取って地震、火災訓練を行なっている。火災時には立地的に住民協力は難しく、消防署、地区長と検討した結果、災害時は併設施設間での協力体制を図ることになっている。非常用食材の備蓄も共有している。	近隣住宅から遠いため、災害時に地域住民に協力を得ることは想定できない。津波、水害のリスクは低いとされており、併設の特別養護老人ホームと連携し、消防署の立会を得て、年2回火災想定防災訓練を実施している。食料品等の非常用備蓄は、3日分を保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権や尊厳を尊重した支援を徹底し、個々の人格を大切に、適切な言葉かけをすることを常に職員に周知している。適切でない言葉かけは、職員間で注意し合っている。マニュアルに沿って、個人情報、プライバシー保護についても徹底している。	入浴時やトイレでの対応、日常の言葉かけ等、職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシー保護に努めている。名前を呼ぶ際にも、利用者を傷つけないよう配慮している。職員間でも互いに注意し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者本位の支援を基本に、傍らで内面の思いを感じて、会話を通して利用者に自己決定してもらうことができるよう、日々の場面づくりに取り組んでいる。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活空間の中で、利用者が安心して生活できるよう、一人ひとりのペースを優先し、見守る支援に取り組んでいる。また、笑顔でいられるよう努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣や、希望に応じて基礎化粧品も購入するなどの支援を行なっている。定期的に美容師が来訪し、散髪を行なってくれている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しいものとなるよう、美味しいものを提供するため献立は希望を聞き、季節感を取り入れた食事を心がけている。職員も一緒に食事をしている。利用者には、料理の下ごしらえや、おやつ後の片付けを手伝ってもらっている。	ゆったりした雰囲気、利用者、職員と一緒に食事している。献立に希望を取り入れ、季節感を出す工夫をしている。食器洗い、調理の下ごしらえ等を利用者も手伝っている。月1回、ぼた餅やフルーツポンチなどを利用者と一緒に作り、楽しんでいる。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の水分摂取やコーヒータイムなどを通して、1日1300mlを目安に水分確保をしている。飲みやすいものを提供し、栄養面では栄養補助食品で補うなどして、個別に対応している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に適した歯ブラシを使用し、毎食後の口腔ケアでは義歯や残歯の清潔保持についても可能な限り本人が行えるよう、誘導や声かけ支援をしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に適した言葉がけをして、全員トイレでの排泄ができています。夜間も、利用者の状況に応じてトイレ誘導を行っている。残存能力維持のうえで、トイレで排泄する生活リハビリを考えている。	オムツ使用の利用者はいない。個々の排泄パターンを把握し、言葉がけにも気を配って、利用者全員にトイレ誘導している。利用者の状態に合わせて、夜間も時間誘導を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給をし、十分に水分を取ること、また、献立も工夫し、おやつの中には牛乳を飲用してもらっている。毎日2回のラジオ体操も行なっている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	少なくとも3日一度は入浴するよう支援しているが、必要に応じて清拭対応やシャワー浴も行なっている。入浴の際の見守りなどは、個人の状況に合わせて支援してる。	毎日入浴したいという利用者はおらず、3日に一度程度の入浴となっている。入浴時は浴槽に浸かり、一人ひとり丁寧にケアをして、入浴を楽しんでもらっている。必要に応じて、シャワー浴や清拭も行っている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間も利用者一人ひとり異なり、朝まで安眠できる利用者、トイレの回数が多い利用者など、個々に合わせて見守りしている。ロビーはいつでも自由に利用でき、出て来た利用者には対応している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の閲覧や、疾病と薬剤の関係など、必要に応じて職員を指導している。服用確認の徹底と誤嚥防止のため職員2人で確認し、服薬チェック表を付けている。処方変更の際の引継ぎなども徹底している。急用的な投薬には、引継ぎ帳や受診記録で共有している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や計算、ぬり絵が得意な利用者や、家事などが得意な利用者の力が発揮できるよう、日々支援している。特別養護老人ホームでの行事には、利用者全員が参加して楽しんでいる。毎日、日替わりのレクリエーションを行っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設の特別養護老人ホームには、日常的に多くの利用者が出かけている。散歩したり、四季折々の花見や行事、買い物にも出かけている。	毎日のゴミ出しの時間を活用して、敷地内を散歩している。ドライブにも出かける機会が多い。また、花見や各種地域行事にも参加している。共用ロビーの外で、外気浴をしながらおやつを楽しむこともある。本人の希望を聞き、家族に協力を頼むこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物代行は行なっているが、小銭の管理をしている利用者には、支払いや残金の確認などを見守りながら、支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持し、自由に家族に連絡をとったりしている。家族への連絡の際には、利用者にも電話を取りついたりしている。親類からの手紙が届く利用者もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した共有のロビーで、キッチン、浴室全てから太平洋が望められる。できる限り四季が感じられるよう、ホールの壁紙を四季毎に張り替えたり、七夕、クリスマス、正月等の飾りつけも行なっている。	太平洋が一望できる共用空間となっており、明るく、ゆったりした雰囲気がある。四季折々の壁飾りを作ったり、利用者の作品を飾ったりしている。利用者は、自室にこもることもなく、思い思いに談笑したり、ソファーに横になったり、テレビを観たりして、くつろいで過ごしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は一ヶ所にいるのではなく、居室、ロビーでくつろぐなど、思い思いの場所で語り合いながら、自分一人で行動ができるよう配慮している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を聞き、生活の延長で過ごせるように心がけ、各々の住みやすさを考えた支援を行っている。家族の写真を飾る、以前使っていた物を持参するなどしている。	各居室には、備え付けのベッドとクローゼットが設置され、整理整頓して収納できるようになっている。十分な明るさがある居心地よく、毎日清掃されて清潔感がある。写真や馴染みの家具等が持ち込まれ、その人らしさが伺える居室となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本は安全安心な介護であることを忘れずに、本人のできることや可能なことを活かして、残された機能が発揮できるよう、生活支援を行っている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない